

3 点目は、「思いやりのあるやさしいまち」です。

高齢社会の進展に伴う医療費や社会保障費の負担増加など、今後の福祉施策には多くの財源確保が必要になります。町民すべての皆さんが生きがいを持ち、安心して暮らすために、福祉施策の充実が欠かせません。「生きがいづくりの場」としてのシルバー人材センター事業の拡充支援をはじめ、高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉施策の充実、さらには老人保健施設の整備推進などを図り「生き活きと安心して暮らせるまちづくり」に取り組んでいきます。

4 点目は、「住環境を重視した文化あふれるまち」です。

公園・緑地など憩いの場の整備拡充や、山林、農地などの保全に努め「緑豊かなまちづくり」を進めていきます。そして、新たに住環境の保全や秩序ある開発などを誘導するための手続きを定める「まちづくり条例」の制定に取り組みします。

また教育学習センターを拠点に学力レジジの各種講座の拡充、さらには、スポーツ・文化・芸術活動などの環境整備に努め、町民すべての皆さんが生きがいを持ち「明るく暮らせるまちづくり」を進めていきます。

5 点目は、「行政サービスを追い

求めるまち」です。

町民の皆さんの行政に対する「理解と信頼」を深め、町政への参画を一層促進するため、情報公開の推進や広報・広聴機能の充実など「開かれた町政」を推進します。そして、町民の皆さんに信頼される職員になることを目指し、資質向上のための研修の拡充・強化などに取り組んでいきます。

以上の5 項目を重点施策として「ゆとりと活気ある ふれあいのまち」の実現に向け、予算編成を行いました。

平成15年度当初予算

一般会計は、前年度と比較し、0.6%、1 億円増の178 億9,800 万円です。このほか特別会計は国民健康保険事業など6 事業で、前年度と比較し、4.6%、約3 億2 千万円増の総額73 億7,686 万3 千円、公営企業会計は病院事業で0.8%、約2 千万円増の25 億3,145 万9 千円で、一般会計、特別会計、公営企業会計を合わせた総額は、278 億632 万2 千円になります。

第5 次三好町総合計画の6 つの柱「おもいやり」「ゆたかさ」「やさしさ」「つるおい」「こちよさ」「ふれあい」の各ビジョンに基づき、主な施策内容は次のとおりです。（予算の概要は17 ページ）



オープン3 年目を迎える町民病院

基本施策1

健やかで生き活きと喜びあえるまち

1 点目の「おもいやり」のビジョンは、お年寄りから子どもまで町民すべての皆さんが安心して暮らせるよう保健・医療・福祉制度の充実を図り、みんなで支え合う福祉社会の実現を目指す「健やかで生き活きと喜びあえるまち」です。

介護保険事業の推進

本格的な長寿社会を迎えているわが国では、介護が必要な高齢者が急速に増加するとともに、介護する人の高齢化も進んでいます。また社会・経済構造の変化などにより、家族だけで介護することが難しくなっています。

こうした状況を背景に、介護を社会全体で支え合う「介護保険制度」

特集

町長施政方針



車いす介助ボランティア教室

が、平成12年度に始まりまして、3年が経過した平成15年度からは向こう3年間の介護保険料をはじめホームヘルプサービスなど各種サービス量を見込んだ第2期介護保険事業がスタートします。第2期の保険料については据え置きをしながら、できる限り住み慣れた地域や自宅で自立した生活ができるよう、居宅サービス基盤の整備、介護保険施設の整備を進めるなど介護保険の充実に努めていきます。

また介護認定は受けられないけれども、社会的支援を必要とする皆さんに対する訪問介護「なかよしホームヘルプサービス」や通所介護「なかよしデイサービス」など、福祉サービスの一層の拡充を図り「生き生きと安心して暮らせるまちづくり」に努めます。

子育て支援

核家族化が進み、共働き家庭などが増加する中、子どもの健全育成や保育サービスの充実など、子どもたちが健やかに育ち、子育てに夢を持てる環境づくりをすることは重要な課題であると認識しています。このため「乳幼児保育」「24時間対応保育」「延長保育」などの保育サービスの充実、きたよし地区への新保育園の建設推進、子育て支援センターの充実や放課後児童クラブの拡充など、子育て支援事業を推進し、子どもを安心して産み育てることのできる環境整備に取り組んでいきます。

さらには、子どもを持つ家庭の経済的負担を少しでも軽減するため、昨年10月から5歳未満児にかかる乳幼児医療費自己負担分の無料化を実施してきました。本年4月からは、さらに受給対象年齢を未就学児までに拡大するとともに、所得制限を撤廃する予算措置をしました。議会なびに町民の皆さんのご理解をお願い申し上げます。

健康づくり

町民すべての皆さんが健康で生きがいを持ち、安心して暮らせる社会を目指して開設した三好町民病院も、本年5月で3年目を迎えます。町民病院は療養型病床をはじめ、訪問看護

ステーションや在宅介護支援センターを併設。入院から在宅までの一貫した医療福祉を行っています。21世紀の高齢社会に対応し、地域に根差した信頼される病院として、今後とも町民の皆さんのご要望をお聞きしながら医療福祉サービスの充実に努めていきます。

また「病気にかからない」という「疾病予防」や「健康づくり」対策は、行政の重要施策であるとの視点に立ち、昨年2月に「健康みよし21」を策定しました。この計画は個人の健康づくりを支援することを柱に、妊娠・出産から65歳以上の老年期まで、人生を5つのライフステージに分け、それぞれの年齢層に合った目標を定め、健康づくりを推進しようとするものです。

「自分の健康は自分でつくる」との認識のもと、一人ひとりの健康レベルが高まれば、まち全体が活気づきます。町民すべての皆さんが、生涯を通じて健やかに生きいきと暮らせるよう、健康づくりを積極的に支援していきます。



みどり第2児童クラブ

基本施策2

心ゆたかな個性と創造性が輝くまち

2点目の「ゆたかさ」のビジョンは、「生きる力を育む」教育、さらには、生涯を通じての学習・スポーツ・文化活動などの推進により、心ゆたかな人づくりを目指す「心ゆたかな個性と創造性が輝くまち」です。

学校教育施設の整備・充実

本町は名古屋大都市圏内にあり「ぐるまのまち 豊田市」に隣接する地理的条件にも恵まれ、三好ヶ丘地区を中心に現在も人口の増加が続いており、三好丘小学校、緑丘小学校、北中学校の児童・生徒数は年々増加しています。そのため教育環境が悪化しないよう三好ヶ丘地区での小学校ならびに中学校の建設を計画しています。

新中学校は平成18年度、新小学校は平成19年度の開校を目指して事業を進めます。また既設の北部小学校の大規模改修事業、三好丘小学校の校舎増築工事などの施設整備を進めるとともに、教員補助員の臨時雇用など「次代を担う人づくり」のため、良好な教育環境の整備に努めます。児童・生徒数の増加や施設の老朽化に対処するため建設を進めてきました新給食センターは3月26日に竣

工します。このセンターは、衛生面により配慮したドライシステム方式を取り入れ、さらには最新の厨房機器や環境に配慮した太陽光発電、太陽熱給湯なども導入しました。成長期にある子どもたちの健やかな発育のため、安全で皆さんが安心できるバランスの取れた給食の供給に努めていきます。

生涯学習の推進

昨年2月、一人ひとりが生涯学習を通じて、豊かな人生を送れることを願う「たまり場から生きがいつくり」をキャッチフレーズに「ふれあい・学びあい・支えあい」として響きあう「生涯学習」を基本理念とする三好町生涯学習推進基本計画を策定しました。生涯学習は自主的な学習活動で、同じ目的を持つ仲間と学習することで人々の和ができ、日々の暮らしに潤いが生まれます。これからの人と人とのつながりは地域づくり、まちづくりへと発展していくものと考えています。

旧町立病院を改修し、生涯学習の拠点となる教育学習センターを昨年9月に開設。悠学力レτζジの各種講座を中心に多くの皆さんにご利用いただいています。また文化センターサンアート、中央図書館、中央公民館、地区公民館などでは、文化・芸術活動をはじめ、各種の講座やボラ



三好演劇塾の旗揚げ公演「合唱劇カネット」の一場面

ンティア活動などが活発に展開されています。平成15年度は文化・芸術振興の拠点である、文化センターサンアートが開館10周年を迎えます。町民主体の「三好演劇塾公演」をはじめ「三好ミュージックフェスタ」や「NHK交響楽団演奏会」などの記念事業を計画しています。町民の皆さんの積極的な参加と協力をお願いいたします。そしてこうした機会をきっかけにして、さらに一層自主的な文化・芸術活動の振興が図られることを期待しています。今後も、こうした自主的な生きがいつくり活動を積極的に支援し、豊かな人づくり・まちづくりに取り組んでいきます。

カヌーの振興

スポーツは、生きがいや健康づくり、仲間づくりなどはもとより、青少年が社会性を培うなど心身ともに健全な発育を図るうえで有効な手段であると考えています。本町では、平成6年の「わかしゃち国体」において、カヌー競技が開催されたことを契機に、毎年三好カヌー国際レヂー

特集

町長施政方針

スカーフ大会、日本カヌーポロ選手権大会などを開催し「カヌーのまち三好」として、国内外に「その名」を知られるようになってきました。

また町民の皆さんにカヌーに親しんでもらうため「カヌー教室」や「カヌーに親しむ集い」などを開催。カヌーの普及、啓発にも努めてきました。こうした活動により、カヌー競技に対する理解や普及といった所期の目的はほぼ達成されました。今後は、より多くの皆さんが水辺に親しみ、楽しみながらできるカヌーの導入を考えていきたいと思えます。その一環として、平成15年度からは10人乗りのみんなで楽しむことのできる「Eポート」を活用し、レジャーカヌーの振興を図りながらカヌーへの一層の理解と町民の皆さんの健康づくりや交流の推進に取り組んでいきます。

2004年には、保田ヶ池カヌーポロ競技場で世界カヌーポロ選手権大会が開催されます。本年2月には、マスコット・キャラクターの愛称を公募によって「POLOX（ポロックス）」と決定しました。海外からお越しになる選手をはじめ関係者の皆さんが気持ち良く競技ができるよう、本大会に向け万全の体制を整えていきます。議会ならびに町民の皆さんの温かいご支援とご協力をお願いします。

基本施策3 安全で安心して住める 美しいまち

3点目の「やさしさ」のビジョンは、快適な住環境の整備、交通安全・防犯・防火・防災対策の推進、さらには、「人や環境にやさしいまちづくり」を進める「安全で安心して住める美しいまち」です。

防災対策

昨年4月、東海地震を想定した「地震防災対策強化地域」について国の中央防災会議で審議され、愛知県内では本町を含め57市町村が、新たに「地震防災対策強化地域」に指定されました。「安全・安心対策」は行政の最重要課題との認識に立ち「地震災害対策計画」の修正や大雨時における浸水個所や避難場所などを表示したハザードマップの作成を進めてきました。ハザードマップにつきましては、本年3月までに作成作業を終え、町内全世帯の皆さんに配布して風水害に対する危機管理の啓発に努めていきます。

防災対策は、行政はもとより地域住民、事業所など「まちぐるみ」で取り組まなければならないと考えています。このため、昨年12月には火災、地震、風水害などの自然災害の発生時に、消火活動や後方支援活動

が要請できるようトヨタ自動車株式会社と「消防・防災に関する応援活動協定」を締結しました。

さらに平成15年度には、民間木造住宅耐震診断や有事の際に広域避難所となる公共施設の耐震診断ならびに耐震改修の計画的な実施をはじめ、防災行政無線施設の増設、消防団の消防車両への無線機の搭載など防災体制の強化に努めていきます。

また日ごろ各行政区では、自主防災会を中心として、防災訓練や各種の防災に関する啓発活動などに自主的・主体的に取り組んでいただいで

います。「災害は忘れたころにやってくる」といわれるように町民の皆さん一人ひとりが常日ごろから「防災に対する意識」を持ち、行動することが大切であると思っています。

このため町内全世帯を対象に自主防災会が主体となり、希望者に「家庭用非常持出袋」を配布するなど、災害発生時の応急対策に努めていきます。今後とも地域の皆さんの協力をいただきながら「消防力・防災力」の一層の強化に努め「安全で安心して住めるまちづくり」に取り組んでいきます。



防災訓練